

# 日刊 動労千葉

84. 4. 13  
No. 1617

国鉄千葉動力車労働組合  
千葉市要町二一八（動力車会館）  
（鉄電）二九三五・六（公衆）〇四七二（二二）七二〇七

## 平野君虐殺弾劾！84春闘勝利 4% 6500名で局前を席捲

四月六日、動労千葉は六五〇名の結集をもって、「84春闘勝利、平野君虐殺弾劾・反合運転保安確立、内達―動乗勤改悪阻止、動労千葉総決起集会」を千鉄局前で勝ちとりました。

### 布施書記長が基調を提起

一七時五〇分、重見特執の司会で始まった集会は、最初に布施書記長からの基調報告をうけました。

布施書記長は、第一に「3・30平野君虐殺」は、運転保安対策を怠った当局に責任があり、平野君の死を無にしないためにも運転保安闘争を強化していく。

第二に、「春闘十連敗」は、反動政治攻撃との対決を避け、政治闘争を放棄してきた既成指導部の路線そのものの敗北に他ならない。3・25五割動員を実現した動労千葉のように「やればできる」の姿勢をもって闘い、中曽根の軍大化・改憲攻撃を粉碎し、春闘―大巾賃上げを闘おう。

第三に、「線区徐行」をかちとった十年前の闘いをはじめ、動労千葉は運転保安闘争を最重要の柱として闘いぬいてきた。今日の臨調・行革合理化攻撃は重大事故への道だ。「3・30」の無念と怒りを忘れず、反合・運転保安闘争の強化をかちとろう。と基調を提起しました。

鶴岡勝浦支部長、日暮成田支部長  
田中青年部長が決意表明

全国から寄せられた機電が紹介された後、決意表明が行われました。

最初に、故・平野雅夫君の所属した勝浦支部・鶴岡支部長は「3・30事故は、われわれの要求に耳をかさなかった当局の責任であり絶対許せない。3・30を契機に徹底的に闘っていく」と、断固たる決意を明らかにしました。

つづいて、「3・25三里塚」五割動員の最先頭にたち、これを実現した成田支部・日暮支部長は「3・25五割動員の貫徹は、右傾化する今日の労働運動の『常識』から言えば、『夢物語』を実現してみせたということだ。平野君虐殺の痛苦な現実を機に運転保安闘争を洗い直し強化していこう」と述べました。

さらに、3・25を中心的に担った田中青年部長は「3・25五割動員の実現は、三里塚を基軸に中曽根と対決する路線と原則をまげず



に闘う動労千葉の勝利だ。三里塚―国鉄の勝利にむけ決起しよう」と訴えました。

### 「3・30」を再出発の日としよう 中野委員長が集会のまとめ

集会は、最後に中野委員長がたち、まとめを行いました。中野委員長は、冒頭、故・平野君についてふれ「平野君を殺したのは当局だが、同時に動労千葉に警鐘を乱打した。運転保安闘争を恒常的に闘いつづけなければならないことをつけた。『3・30を忘れるな』を全体のものとしよう」と呼びかけました。

すなわち中曽根の臨調・行革を背景とした当局の合理化、職場規律の強行がこうした事故を増大させていることを指摘し、そうであるがゆえに運転保安闘争の強化が求められているにもかかわらず、闘いを裏切り、当局と結託し、労働者を売り渡す動労「本部」革マルを怒りをこめて弾劾しました。

そのうえで、動乗勤について「動労千葉は、動労『本部』革マルと当局が一体となって全組合に強制しようとした動乗勤の『三月妥結』を拒否してきた。本質は、運転保安の確立にある。トップ交渉を行い、局長を団交の場に引きだして、当面する重要な反合・運転保安課題についての具体的対応を確認させることとした。反合運転保安確立こそ、われわれの闘いの基本軸であり、全力で闘おう」と提起すると同時に、「3・25五割動員を実現した動労千葉の闘いはもとより、今日闘っている安全闘争、腕章闘争は全国どこでも闘っていない。労働運動が不様な状況にある中で極めて重要な闘いだ。動労千葉こそ労働者を守り、国鉄労働運動を改革する唯一の組合である。三里塚―国鉄をめぐる決戦に決意して、私たちあがろう」と訴えました。

集会は最後に、局前広場をデモで席捲し、山口副委員長の音頭で団結ガンバローを三唱して終了しました。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！